

学校教育目標		学校経営方針(4月)		評価(3月)
		「確かな学力」の向上を図り、知・徳・体の調和のとれた「豊かな人間性」を培い、国際社会に主体的に対応できる「生きる力」を育成する。		
昨年度の成果と課題	30年度重点目標	具体的目標		
創立百周年を起点とした本校のあらゆる取組により、規範意識の向上、進路実績、部活動の躍進等がみられ、学校の安定化が図られている。今年度は、教職員個々が自身の教育活動の質の向上に取り組むことで、教育環境の品質向上と学校の教育力向上を図る。また、生徒の希望進路が、進学、就職、公務員等と多岐に亘ることから、地域に求められる高校として進学実績・就職実績を追求すると同時に、確かな学力の定着と個別指導の充実を図る。さらに、生徒一人一人の可能性を最大限引き出し、「生きる力」を身につけた生徒の育成に取り組むことで、将来、どのような仕事に就いたとしても自分の力を最大限発揮し、社会に貢献できる人材を育成する。授業面においては、ICTを効果的に活用して、力のつく効果的な授業手法の研究に取り組み、主体的・対話的で深い学びを推進し「生きる力」を備えた生徒の育成を図る。その上で魅力ある「授業」と細やかな個別指導、多岐に亘る希望進路実現のための「若高キャリア教育プラン」(ブランド化へ)を本校の特色としてアピールしていく。	確かな学力の向上を図り、知・徳・体の調和のとれた豊かな人間性を培い、国際社会に主体的に対応できる「生きる力」を育成する。 (1) 礼儀正しく、規範意識の高い学校をつくる。 (2) 若高キャリア教育プランを推進する。 (3) 教科指導力と生徒指導力を高める。 (4) 学校行事や部活動を活性化させ、元気溢れる若高を創る。 (5) 地域及び小・中学校との連携を深め、信頼度を高める。	(1) 全ての生徒が場に応じた挨拶ができる。 ・学校内外を問わず、ルール・マナーを守って生活することができる。 ・出席皆勤等、表彰される生徒を各学年50名以上輩出する。 (2) 多岐に亘る希望進路の100%実現を図るため、希望進路に合わせた若高キャリア教育プランを推進する。 ・個別指導を充実する。 (3) 確かな学力を身につけさせる為の授業力の向上に努めるとともに、全ての教師がICT活用能力を習得し、授業に活かす。 ・職員一人一人が「教師としての行動指針」を実行できるようになる。 ・生徒の問題行動を見逃すことなく、時機をとらえ組織的な指導を行うとともに、いじめの撲滅を図る。 (4) 生徒会、ブロックリーダー、委員会活動、部活動等の活性化を図り、学校行事や日々の活動をとらえて課題解決能力を育成する。 ・部活動加入率75%を目指し、県大会出場部活動を増やす。 ・素直で明るく、文武両道に努力する心身ともにたくましい生徒を育てる。 (5) 在校生による出身中学訪問により、生徒目線による若松高校の魅力発信する。 ・積極的な情報発信に努め、リアルタイムな広報活動を展開する。 ・地域との繋がりを大切にし、小・中学校や関係機関との連携を深め、地域の期待に応える「地域に信頼される学校」づくりに努める。		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
教務部	確かな学力の育成のための魅力ある授業の展開	・ICT機器を活用した授業や、アクティブラーニングの手法を取り入れた授業を引き続き積極的に行うことによって、生徒にとって魅力的で質の高い授業を目指す。		
	授業規律の徹底	・チャイム to チャイムの授業を行い、授業内での規範意識を高める指導を行う。 ・落ち着いた授業環境構築のため、定期的な教室巡回を行う。		
	各分掌との連携	・課外授業と連動したコース制の確立や、不登校を防ぐための個別面談期間の設定などを行い、各学年と協力して出席率99%を目指す。		
	効果的で広範囲にわたる広報活動の推進	・中学校訪問を柱に、学校説明会、また広報紙やホームページ等の媒体を通して、さまざまな本校の教育活動の取組を、中学生、保護者、中学校および学習塾教員にスピーディかつ効果的に情報提供し、「今の若高」をPRする。特に若松区内の中学校からの志願者の定着と戸畑区内中学校からの志願者増加を図る。 ・中学生体験入学(オープンスクールを含む)を2回実施し、300名以上(27年度172名、28年度201名、29年度255名)の参加者を目指す。 ・学校開放週間、出前授業、体育大会案内、広報掲示板などにより、「地域に開かれた若高」を広くPRする。		
	防災意識の向上と防災教育の充実	・火災だけでなく、地震、津波などの自然災害に対応した卒業後も役立つ防災教育(知識と技能の習得)の充実を図る。また、行政が発行した防災に関する資料を積極的に活用する。 ・各教科の授業内容に防災教育(防災に関する内容)を盛り込むことで、普段から防災意識を高めさせ、防災意識の更なる醸成を図る。		
	PTAとの連携による学校活性化	・PTAの自発的な取組をサポートするとともに、教職員とPTAとの連携を昨年以上に強化することで、学校の活性化を推進する。		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
生徒	基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> 年間をとおした登校指導と定期的な下校指導を行い、学校の内外を問わず、社会のルールやマナーを守って生活することのできる生徒を育成する。 生徒違反カードを継続して利用し、全職員で制服の着こなしと頭髪指導を行う。すべてにおいて組織的に指導する。 		
	「生きる力」を備えた生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> 礼儀をわきまえ、規範意識が高い生徒、気持ちの良い挨拶ができる生徒の育成を目指し、年間をとおした登校指導とPTA・若高を愛する会と連携した「笑顔のあいさつ運動」を行う。 年間問題行動指導生徒数15名以下を目指す。 		
	元気溢れる若高生を創る	<ul style="list-style-type: none"> 特別活動（ブロック活動、生徒会、委員会活動、部活動、学校行事や学級活動、地域ボランティア活動等）をとおして課題解決能力、「豊かな人間性」を育成する。 部活動加入率75%を目指す。 		
部	健康管理・安全衛生管理の習慣の習得	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の健康診断を実施する。 外部講師を招聘し、学年単位での救急救命講習会を実施する。 教育相談、カウンセリングを充実させる。 心身ともに健全な生徒を育成する。 		
	環境美化活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> 美化委員会と各種委員会との連携を図り、美化強化週間を実施するとともに、各種行事の前後に大掃除を計画して教育環境の整備に努める。 		
	感染症の予防や大気汚染等への注意喚起	<ul style="list-style-type: none"> インフルエンザ等の感染症の予防として手洗いやうがいを励行し、教室の換気等に努める。 情報を収集し、大気汚染物質に対して十分注意を払う。 保健委員による健康調査を実施する。 		
進路	生徒の学力向上と主体的な進路選択能力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 朝課外では習熟度別に課外を実施することで、より生徒の理解度に合わせた授業を行う。1・2年生ではベネッセのClassiラーニングシステムを使用した振り返り学習を行うことで、基礎的・基本的な知識の定着を図る。 1年「地元職業人との懇談会」「職業ガイダンス」、2年「インターンシップ」やその他の進路行事を通して、自らの将来のビジョンを描く能力の育成を図る。 卒業生による「就職座談会」を通じて、就職希望者の勤労観の育成を図る。 		
	生徒それぞれの希望進路の実現 就職内定率：100% 国公立大学：10名 四年制大学：50名	<ul style="list-style-type: none"> 高大教育連携講座の実施による生徒の学ぶ意欲の向上を図り、小論文作成能力や社会のさまざまな問題に対して自分なりの解決策を考える能力を育成する。 就職希望者に対しては、校内及び外部講師による指導を行い、就職内定率100%を実現する。 大学受験者に対しては、一斉授業の形での指導だけではなく、個別指導をしっかりと行っていくために、学年、各教科担当と連携をとって指導体制を確立する。 		
部	人権侵害である「いじめ」のない学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> 「いじめアンケート」または「学校生活アンケート」を毎月実施し、その結果をもとに、早期の状況把握に努めるとともに、アンケートの実施時間や方法、内容等、状況や必要に応じて適宜改善していく。 クラス担任や学年団と連携を図りながら、早期の解決へとつなげるとともに、その後の様子などから、経過について見守る。 		
	就学・修学・進路保障の取組を通じた「生きる力」の育成	<ul style="list-style-type: none"> 就学支援金や各種奨学金の活用などを通して、生徒や保護者が経済的な見通しをもって進路実現を図ることができるようにする。 生徒情報交換会や学年別拡大会議において、生徒やその家庭に関する情報交換を密に行うことができるようにする。 統一応募用紙や、違反質問に対する学習を充実させることで、一人ひとりの人権が保障された進路実現に向けての取組へとつなげる。 		
	人権・同和教育特設授業の取組の充実	<ul style="list-style-type: none"> 外部講師の招聘や、視聴覚教材の積極的な活動など、生徒の実態に応じて創意工夫した授業を展開できるようにする。 様々な教育活動を通して、人権を尊重することの大切さを学ばせるとともに、教師自身の体験や「伝えたいこと」「訴えたいこと」といった心の部分を深化させることで、人権を尊重する「ねらい」や目的を持って取組を進める。 		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
学 年 経 営 部	職員研修・初任者研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> 職員研修は、内容の精選をしたうえで、研修内容の希望調査を行い、その結果に応じた内容の研修会を実施したい。 各分掌の先生方と連携して初任者研修の内容充実を図るとともに、研究授業や示範授業の参観を促したい。 		
	図書館利用の促進	<ul style="list-style-type: none"> 学期毎に選書委員会を開催することで、生徒や職員のニーズに応じた本を購入し、利用者の増加を図る。 1年生向けに「図書館オリエンテーション」を実施したり、全学年対象の「読書の時間」を設定することで、生徒一人あたりの貸し出し冊数7冊(昨年度5.8冊)を目指す。 		
	異文化理解国際交流の推進	<ul style="list-style-type: none"> 1日英語セミナーを実施することにより、多様な価値観や異文化理解を深めさせる。また、近隣の小中学生の参加を募り、学校のPRに繋げたい。 		
	1学年	<ul style="list-style-type: none"> 出席皆勤80名を目標とし、時間を守る意識を持たせる。 清掃活動に積極的に取り組む生徒を育成する。 場に応じた言葉遣いができるように、学校生活全般で指導を行う。 		
	基礎学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> 授業規律を遵守させることで、学習の雰囲気醸成する。 学習方法を確立させるとともに、基礎・基本事項を繰り返し学習させることで、定着を図る。 定期的に課題を課すことで、家庭学習を充実させる。 		
	主体的に行動できる生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事・総合学習において生徒が主体的に活動できる場面を設け、課題解決能力を高めさせる。 		
	2学年	<ul style="list-style-type: none"> 年間出席皆勤が昨年を上回るようにする。 学校生活を社会に出るための準備の場として意識させ、1年次に確立した生活習慣の内容的な質の向上を目指す。 授業に対する意識を向上させ、授業規律を遵守し、授業に参加する姿勢や態度の更なる質の向上を目指し、学力の向上を図る。 		
	希望進路実現を見通したうえでの学習内容の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> 卒業後の希望進路を見据え、意欲的に学業に専念させるとともに、今までの学習時間や、内容を見直し、質の高い学習内容に取り組みさせる。 課外の重要性を理解させ、課外や個別指導での質の高い学習内容を積極的に取り入れるよう指導を行う。 		
	若高生としての自覚の育成 リーダーになるための資質の向上 地域に信頼される生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> 若松高校の生徒としての自信と誇りを持たせ、常に高校生として地域や卒業生から信頼される人となるよう指導を行う。 3年生になるための準備を行い、学校内でのリーダーとして活躍できる人材を育成し、若松高校全体を見渡せる広い視野を持った生徒を育成する。 		
3学年	<ul style="list-style-type: none"> 出席皆勤70名以上を達成する。(1年次37名、2年次52名) 最上級生としてリーダーシップを発揮し、学校活性化に貢献する人材育成を図る。 自分の言動に責任を持たせるとともに、対人関係能力を磨かせる。 			
生徒全員の進路実現	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の進路目標に合致した個別指導の充実を図り、国公立大学合格10名、就職100%を目指す。 授業目標の可視化・明確化により、学習効果を高め、進路実現につなげる。 小論文指導、面接指導(就職、上級学校推薦)を計画的に実施する。 			
質の高い学年運営	<ul style="list-style-type: none"> 文書主義の原則を守り、情報の伝達・確認・保存・記録を行う。 学年と各分掌の有機的連携を意識し、情報交換を密にする。 生徒に関する多様な情報を相互に受け入れる受容的な関係を目指し、保護者との連携も重視する。 			